

2019年12月8日(日)／大分市・コンパルホール

地域を繋ぐ防災意識 ～いま、私たちにできること～

2019年度の社会貢献フォーラムは「地域を繋ぐ防災意識～いま、私たちにできること～」と題し、大分市で開催された。約300名の参加者を前に、第1部ではフジテレビ系列「情報プレゼンターとくダネ!」で気象キャスターを務める天達武史さんによる基調講演、第2部では様々な分野のパネリストが参加し、防災・減災活動の重要性や災害時の社会貢献活動などについて考えるフォーラムを開催した。

主催：

全日本社会貢献団体機構、大分合同新聞社、全国地方新聞社連合会

後援：

大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、J:COM大分ケーブルテレコム、エフエム大分、共同通信社、全日本遊技事業協同組合連合会、大分県遊技業協同組合

第1部 講演

天気の達人から見た近年の気象災害

天達武史さん(気象予報士)

私は平成24年に起きた九州北部豪雨の取材で大分県を訪れていますが、今年の台風19号による被害を見ても、最近、天気がおかしい、とくに大雨による災害が目立っていると感じている人は多いと思います。

大型台風などで一時間に100ミリも雨が降れば危ないと思うかもしれませんが、実は怖いのは20ミリくらいの雨がずっと降り続くことです。今日もまた雨かと思い、みなさん逃げようとしません。でも、その程度の雨でも、降り続くと大きな川でも氾濫してしまうことがあります。激しい雨が降ったときよりも、しとしと降り続く雨のほうが避難のタイミングが難しい。そういうときほど早めに避難することが大切です。

雨の降り方などを見ても、夏を中心に、もはや熱帯で暮らしているという意識を持ったほうがいい。よく地球温暖化と言いますが、温暖化とは単に気温が上がるだけでなく、台風が巨大化したり、豪雨が増えたりします。昔はなかったような非常に激しい現象が増えるというのが、地球温暖化による気候変動の正しい理解です。

防災には「3K」というものがあり、「気づく」「考える」「行動する」の三つです。危険に気づき、どうするかと考えるとそこまでは普通にできます。大切なのは、行動することです。みなさん、行動ができる人になってください。



第2部 フォーラム

地域を繋ぐ防災意識～いま、私たちにできること～

村松さん 災害を防ぐため、あるいは災害に見舞われたときに被害を最小限に食い止めるために、私たち一人ひとりがどんなことをしていっていいのか、みなさんと一緒に考えていきたいと思います。

小林さん 私たち大分大学減災・復興デザイン教育センターでは、災害調査、防災教育、復興デザインを三つの柱に、地域のみなさんのためにできることを考えて活動しています。その一つが、NHK大分放送局と協力して作った『大分県災害データアーカイブ』ですが、これは『大分県災害史』という資料をすべてデータ化したもので、有史以降、大分県内1,600ヵ所で行った土砂災害、地震、大雨、洪水などの情報をインターネットを通じて一覧できます。「防災、減災は問い続けること」をコンセプトにして、防災や減災に取り組むことは、その人自身の生き方を考えることに等しいものだと考えています。

藤内さん 災害時におけるメディアの役割は、何が起きているか、命を守るためにすべきことは何か、正しい情報をしっかり伝えることだと思います。速報性ということではテ

レビ、ラジオ、インターネットなどに劣りますが、あふれる情報を整理・分析したり、必要な情報を網羅して伝えたりできるところに新聞の利点があります。災害報道は調査報道だと言われたりしますが、地域メディアとして地域に寄り添った報道をする大切な役割を担っていると感じています。被災後だけでなく、事前の報道も重要だと考え、不定期ですが『防災新聞』という特設ページを設け、その時々で注目されている防災や減災に関するニュースを取り上げています。

力武さん 私どもは大分県下115ホールのパチンコ店から成る組合ですが、本業の健全化とともに、パチンコをしない方々からもパチンコ店があってよかったと言われるような社会貢献活動に取り組んでいます。今年、大きな取り組みが二つあり、一つは大分県警と「犯罪の起きにくい社会づくりに関する協定書」を結び、防犯カメラの情報の提供や特殊詐欺を撃退するために電話に取り付ける防犯機器の寄贈を行っています。もう一つは大分県と「災害発生時における施設使用等に関する協定書」を結び、災害緊

急時の避難場所や食料品、飲料水の無料提供、警察、消防、自衛隊などの緊急車両のために駐車場を開放することなどを決めました。

天達さん 是非、みなさんにやっていただきたいのは、災害が来るまでに自分がやるべき行動を表にしたマイタイムラインを作っておくことです。また垂直避難も含め、避難する場所を確認しておいてほしいと思います。災害時に一番大事なことは、避難場所まで安全に行くということです。

村松さん 防災に対する意識を持続させるには、どうしたらいいでしょうか。

小林さん 本当に難しいことですが、習慣づけるしか方法がないと思います。地震、津波、噴火などは別ですが、大雨や台風は、行動によって人的被災をゼロにできます。そこは住民側も個別にしっかり考える必要があります。

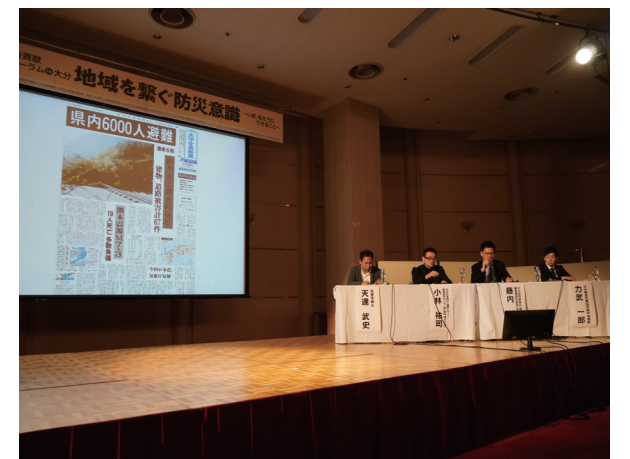
藤内さん 防災には、ここまでやれば100点だということはありません。取材で地域を回ってみると、地域の人と人とのつながりが大事なのだと感じます。昨年の西日本豪雨の検証でも、大分県内で避難勧告に従って避難所に身を寄せた人は全体の1%しかいませんでした。その後の県の会議でも話し合われましたが、過去の水害で実際に避難した方は何がその行動につながったのかという、

隣近所の声掛けということでした。結局、身近な人の姿とか、そうした人からの発信が、防災に対して意識を持ち続けることにつながると思います。

小林さん 自己投影することが大切だと思います。被災地で何が起きているのかについて想いを馳せ、今まで被災していないからといって、これからも被災しないと思わないでいただきたい。誰もが被災する可能性があります。それに対する事前の備えをしっかりとすることも自己投影だと思います。

力武さん やはり危機感を共有することではないでしょうか。まずは災害が起きたらどこに避難したらいいか、必ず確認をしておいていただきたい。何も起こらないのが一番いいが、何か起きたときにどうしたらいいか確認しておくだけでも安心して生活することができると思います。

村松さん 人と人がつながることで、地域を守る力が生まれてくると思います。一人ひとりが防災の意識を高め、誰かの役に立ちたい、そんな社会貢献の積み重ねが助け合える地域をつくっていくのではないかと思います。天気予報などの情報をキャッチして、自分で考え、行動することを心掛けていただきたいと思います。



第一部出席者	天達武史さん 気象予報士	天達武史さん 気象予報士	小林祐司さん 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長・教授 博士（工学）
	2005年10月からフジテレビ系列「情報プレゼンターとくダネ!」の気象キャスター。天気の「天」に達人の「達」と書いて天達。天気の達人を目指し、幅広い世代に分かりやすく興味を持ってもらえるような天気予報を目指す。	力武一郎さん 大分県遊技業協同組合 理事長	藤内教史さん 大分合同新聞社 編集局 報道部 編集委員 社会担当 次長
		村松真貴子さん コーディネーター／アナウンサー	